

だれでも使いやすいエレベーター

御所浦小学校5年

1.調べたきっかけ

いつも使っているエレベーターには、たくさんのユニバーサルデザインがあることを博物館の見学で知った。ボタンの横をよく見ると、点字がついていた。「こんなところに！」という発見から、もっと知りたくなり、調べることにした。

2.調べ方

調べ方は大きく2つある。1つ目は、実際に博物館へ行き、エレベーターに乗って点字にふれたりして調べた。2つ目は、見学のときに気づいたことをもとにして、インターネットでさらに調べた。

3.調べてわかったこと

(1) みんなが使えるように

エレベーターの中には、いろいろなユニバーサルデザインがある。たとえば、ボタンの横にある点字は目が見えない人のためについている。

それ以外にも、日本語がわからない人のために英語でアナウンスする機能などもあり、誰でも安心して使えるように工夫されている。

中でも一番すごいと思ったのは、英語でのアナウンス機能だ。日本語がわからない人のために、音で案内してくれるのはとても便利だと感じた。



(2) ボタンの工夫

エレベーターのボタンにはたくさんの工夫がある。たとえば、大きくて押しやすいボタン、目が見えない人のための点字、車いすの人や背が低い人でも届くように低い位置にもボタンがあることなどだ。

みんなが使いやすくなるように、いろいろな工夫がされていることがわかった。

4.まとめ

エレベーターのユニバーサルデザインについて調べてみて、「ふつう」だと思っていたことが実はたくさんの工夫でできていることがわかった。こうしたデザインがあることで、目が見えにくい人や体の不自由な人も安心して見学できる。恐竜の島博物館は、どんな人でも楽しめる場所だと思う。

〈参考〉

マーキュリーエレベーター

インクルーシブデザインスタジオCULUMU参照

赤ちゃんからおじいちゃんでもウェルカム!!!

御所浦小学校 5年

1,調べたきっかけ

私は普段、ユニバーサルデザインや障がいのある人のための工夫にあまり気をつけていなかった。でも、この授業で、博物館の中に車椅子やベビーカーがあるのを見て、「どうしてあるんだろう？」と気になり、調べてみることにした。

2,調べ方

調べ方は、大きく分けて2つある。まず、実際に博物館に行って、ユニバーサルデザインや障がいのある人のための工夫を見てまわった。中でも気になったのが、車椅子とベビーカーだった。博物館の人にインタビューもして、「なぜこれらがあるのか」を聞いた。次に、インターネットで、車椅子やベビーカーがだれのためにあるのかを調べた。

3,調べてわかったこと

(1) どんな人でも使いやすい

博物館の中には、ベビーカーや車椅子がたくさん用意されていて、誰でも迷わずに借りることができる。入口の近くに置いてあるので、見つけやすくてとても便利だ。体が不自由な人や、長い距離を歩くのがむずかしい人にとっては、とても助かる工夫だと思った。また、エレベーターもあるので、車椅子やベビーカーでもかんたんに階を行き来することができる。これなら、小さな子どもや高齢の人でも安心して見学できる。



(2) 子どもと一緒にの人にもやさしい

博物館の中は冷房が効いていて、夏でも涼しく、熱中症の心配が少ない。ほかにも、ベビーカー、おむつ替え台、ベビーチェア、自動販売機、授乳スペースなどがあり、赤ちゃんといっしょでも安心して見学できるようになっている。

4,まとめ

調べてみて、ベビーカーや車椅子があるのは、「赤ちゃんからおじいちゃんまで」楽しめるようにするためだとわかった。子どもをだっこしながら見学するのは大変だから、「少しでも楽にしていこう」という思いやりがあると感じた。どんな人でも安心して楽しめるように、いろいろな工夫があるとわかった。

参考

スポーツTOKYO インフォメーション

誰にとっても使いやすいエレベーター

御所浦小学校5年

1 調べたきっかけ

ぼくたちがよく行く地域の博物館には、エレベーターがある。でも、ふだんの生活の中で、家などではあまり見かけない。だから「エレベーターには、どんなユニバーサルデザインがあるのだろう」と思い、くわしく調べることにした。

2 調べ方

エレベーターのユニバーサルデザインについて調べるために、三つの方法を使った。まず、博物館に行って、実際にエレベーターに乗り、どんな工夫があるのかをよく見て、ノートにまとめた。次に、見ただけではわからないことを、博物館の人にインタビューして聞いた。さらに、インターネットでも、これまでに分かったことをもとにして、もっとくわしく調べた。

3 調べてわかったこと

(1) エレベーターの工夫

(1) エレベーターの工夫

エレベーターのボタンには、上や下の矢印が書いてあり、点字もついている。ボタンは大きくて押しやすい。また、SOSボタンがあったり、上のスピーカーから日本語と英語で案内の声が聞こえたりする。これは、日本語がわからない人や目が見えない人のための工夫だ。それに、上の画面にはニュースが流れていて、待っている間も退屈しないようになっている。



(2) いろいろな人が使える

エレベーターは、外国の人や、足が不自由な人、目や耳が不自由な人でも使いやすいように作られている。

目が見えない人は、中にある手すりをにぎって安心できるし、車いすもそのまま入れるくらい広い。だいたい5～8人ぐらい乗れる広さがある。

4 まとめ

4年生のときにもユニバーサルデザインについて学んだことがあり、いろいろな場所にあると思っていた。けれども、博物館のような特別な場所には、家などにはない工夫があるとわかって、おどろいた。

これからも、まわりのユニバーサルデザインに気づいていきたい。

だれにとっても便利なエレベーター

御所浦小学校5年

1. 調べたきっかけ

私は、家族でいろいろな場所に出かけるときに、よくエレベーターを使っている。重い荷物を持っていたり、足がつかれたときに、とても便利だと思っていた。そんなとき、学校の学習で御所浦恐竜博物館に行くことになり、そこにもエレベーターがあり、いつも使っているエレベーターとちがった工夫があるかもしれないと思った。

2. 調べ方

大きく2つの方法で調べた。1つ目は、博物館を見学してスタッフにインタビューしたこと。2つ目は、インターネットで疑問に思ったことを調べたことだ。

3. 調べて分かったこと

(1) 誰でも使いやすい

体が不自由な人は、ボタンを押すだけで上の階に行ける。外国人はエレベーターの中でボタンを押すと、「上へ行きます」と日本語で言ったあと、英語でも知らせてくれるので、どこへ行くのか分かる。他の人にとっても、急いでいるときにすぐ使えて便利なエレベーターだ。

一番印象に残ったのは、点字があったことだ。目が見えない人も、点字で行き先が分かるので、とても便利だと感じた。



(2) 工夫されたボタン

御所浦恐竜博物館のエレベーターのボタンは、大きくて押しやすかった。ボタンの位置も工夫されていて、車いすの人や小さな子どもでも届く場所にあった。さらに、点字だけでなく、ボタンに階数がはっきりと書かれていて見やすくなっていた。このように、多くの人が安心して使えるように、細かいところまで工夫されていた。

4. まとめ

体が不自由な人でも、外国人でも、他の人でも、御所浦恐竜博物館のエレベーターは誰でも使いやすくできていることが分かった。ほかのエレベーターにはない良さも知ることができた。御所浦恐竜博物館は、誰もが楽しめて、困らないすてきな場所だと思った。

介助が必要な人も安心

御所浦小学校5年

1調べたきっかけ

障がいのある人がよく使っているインターホンは、「ピンポーン」と押すと、介助をしてくれる人が来てくれるそうだ。このインターホンは、博物館だけでなく、お店などにもあることを知った。そこで、このインターホンについて、もっとくわしく調べてみることにした。

2調べ方

大きく三つの方法で調べた。まず、博物館に行って、インターホンについて博物館の人にインタビューをした。次に、本やインターネットで、このようなインターホンがどのように使われているかを調べた。最後に、学校の図書室でも調べてみた。

3調べてわかったこと

(1) 障がいのある人も使いやすい

インターホンは、博物館の入口だけでなく、休けいする場所など、いろいろなところにある。これによって、障がいのある人も安心して博物館に入ることができる。スタッフの人たちは、笑顔でていねいに手伝ってくれるそうだ。

インターホンは、ただ人を呼ぶだけでなく、防犯のためや、コミュニケーションをとるためにも使われている。インタビューを通して、インターホンが今では生活に欠かせない大切なものになっていることがわかった。



(2) 誰でも使いやすい

図書室でもインターホンについて調べてみた。使っている人を見たことはないが、いくつか気づいたことがある。一つは、ボタンを強く押さなくても、やさしく押すだけで反応することだ。もう一つは、職員室などにつながっていて、待つときには「少しお待ちください」といった言葉を伝えられるところが便利だと思った。

4まとめ

インターホンについて調べてみて、改めて思ったのは、ユニバーサルデザインは多くの人にとって使いやすく、安心してすごせる毎日をつくってくれるということだ。こうした工夫があることで、不便な思いをする人が少なくなり、どんな人も気持ちよく過ごせる御所浦恐竜博物館になっていくのだと思った。

〈参考〉

成松一郎「皆の暮らしを便利にするユニバーサルデザインってなに？」参照

ちょっとの大きさが工夫になる！

御所浦小学校5年

1. 調べたきっかけ

お年寄りや、障がいのある人が使う車椅子、赤ちゃんがよく使うベビーカーが博物館にあると知った。なぜ車椅子やベビーカーが博物館においてあるのかが気になり、調べてみることにした。

2. 調べ方

三つの方法で調べた。まず、博物館に行き、実際に車椅子やベビーカーを見たり、博物館の人にインタビューをしたりした。次に、見学のときに気づいたことをインターネットで調べて、くわしくまとめた。

3. 調べてわかったこと

(1) 誰のためにあるのか

博物館の中には、車椅子やベビーカーがいくつも用意されている。博物館で働く人の話によると、これは障がいのある人、赤ちゃんを連れた家族、そして長い時間歩くのが大変な人のために置かれているそうだ。

特にすごいと思ったのは、車椅子やベビーカーが1台だけでなく、予備も用意されていたことだ。たくさんの人が安心して使えるようにするための工夫だと思った。



(2) いろいろな人へのやさしさ

夏の暑い日でも、博物館の中は冷房がきいていて涼しい。もし疲れたら、休けい場所があるから安心できる。

お昼ごはんを食べるときは、休けい場所か屋上を使うことができる。飲み物がほしくなったら、自動販売機もある。その自動販売機には、下のほうにもボタンがあって、身長が低い人や車椅子の人でも使いやすいように工夫されている。

トイレにも工夫があった。お腹に管がついている人が使えるトイレや、赤ちゃんのおむつをかえられる台もあって、だれでも安心して使えるようになっている。

4. まとめ

私は、車椅子やベビーカーはただ置いてあるだけだと思っていた。でも、実はたくさんの人が楽しめるようにという思いがこめられていることがわかった。

博物館には、子どもからお年寄りまで安心して楽しめるように、いろいろな場所にたくさんの工夫がこめられている。御所浦恐竜博物館は、どんな人にもやさしくて、行きやすい場所だとわかった。

参考

ja-shizuoka.or.jp参照

言葉がちがっても大丈夫

御所浦小学校5年

1. 調べたきっかけ

海外の人が御所浦恐竜の島博物館を見学したとき、化石の名前や説明をどうやって理解するのが気になった。日本語で書かれている説明は、外国の人にはわからないと思った。だから、博物館でどんな工夫がされているのか調べることにした。

2. 調べ方

博物館に行き、化石の説明の下にどんな言葉が書かれているかを見てまわった。特に、外国の人にもわかるようになっているかに注目した。



3. 調べてわかったこと

(1) 英語で書かれている説明

ほとんどの化石の説明には、英語が書いてあった。化石の名前だけでなく、「〇〇時代の生き物」や「〇〇で見つかった」などの説明も、日本語と英語で書かれている。これなら、外国から来た人にも伝わると思った。

(2) 誰にでもわかる工夫

英語の文字の大きさや配置のしかたも見やすく工夫されていた。日本語のすぐ下に英語があるので、「これは同じ意味の言葉だ」とすぐにわかるようになっていた。いろいろな国の人に向けて、ていねいに説明されていると感じた。

4. まとめ

ぼくは今まで日本語だけが書かれていると思っていた。しかし、博物館を見学して、英語の説明がそばにあることで、外国の人にも安心して見学できる場所になっているとわかった。言葉が違っても、思いやりと工夫があれば伝わるのだと思った。

障がいがある人も便利で使える エレベーター

御所浦小学校5年

1 調べたきっかけ

御所浦から出かけるとき、よくエレベーターを使う。ボタンを押すだけで好きな階に行けるので、とても便利だと思っていた。ある日、エレベーターのボタンの上に小さなつぶつぶ（点字）があることに気がついた。「これは何のためにあるんだろう？」「エレベーターには、どんな人のための工夫があるんだろう？」と気になって、もっとくわしく調べてみようと思った。

2 調べ方

大きく二つの方法で調べた。まず、博物館に行き、実際にエレベーターに乗って、点字をさわったり中を見たりして調べた。次に、図書室で本を借りて、エレベーターのしくみや工夫されていることについて調べた。

3 調べてわかったこと

(1) どんな人にも使いやすい

エレベーターは、障がいがある人、外国の人、高れいの人など、いろいろな人が安心して使えるように工夫されている。

『身近なユニバーサルデザイン』という本には、エレベーターは年れいや体のちがいに関係なく、だれでも安全に使いやすくなるように作られていると書かれていた。

特にすごいと思ったのは、日本語がわからない人のために英語の音声も出るようになっていところだ。また、耳が聞こえにくい人のために、光や画面でも行き先を教えてくれるようになっている。

さらに、カードをかざしたり、手をかざすだけで行きたい階に行ける機能もあることがわかった。



(2) 手すりの工夫

エレベーターの手すりには、にぎりやすい形や高さの工夫がある。手すりは、体が不自由な人がボタンを押すときの助けになる。

また、車いすを使う人が後ろ向きでおりるとき、後ろが見えやすくなるように鏡がついている。ボタンも、車いすにすわったまま押しやすいように、少し低い位置についていて、これも工夫の一つだと思った。

4 まとめ

これまで、エレベーターにユニバーサルデザインが使われていることを知らなかった。でも、こんなに身近なものにも、たくさんの人のための工夫があるとわかっておどろいた。エレベーターだけでなく、ほかの場所にも、いろいろな人が気持ちよく使える工夫があると知って、とても大切なことだと思った。

色んな人に分かりやすい非常口マーク

御所浦小学校5年

1.調べたきっかけ

私がよく行く博物館には、いつも非常口マークがある。学校や家にはあまりなく、公共の建物でしか見かけないので、前から気になっていた。どうして非常口マークがあるのか知りたくなって、調べてみることにした。

2.調べ方

2つの方法で調べた。まず、実際に博物館に行き、非常口マークがどこにあるか、どんな種類があるかを見て調べた。次に、本やインターネットで、非常口マークの意味や、昔と今でどう変わったかを調べた。

3.調べてわかったこと

(1) どんなときでも見えやすい！

今の非常口マークは、昔とちがってとても見やすくなっている。昔は文字だけだったので、どこに逃げればよいのか分かりにくかった。けれど、今のマークは、人が逃げている絵になっていて、大人から子どもまで世界中の人に分かりやすい。さらに、火事などであたりが暗くなっても見えるように、一番見やすい緑色で作られている。



(2) 非常口マークは2つある！？

非常口マークには、大きく分けて2つの種類がある。ひとつは、人が走っているマークのとなりにドアが描かれているものだ。このマークは、「ここが非常口ですよ」ということを伝えている。火事や地震などの災害が起きたときに、このマークのあるところから逃げれば安全に外に出られるという意味だ。

もうひとつは、人が矢印の方向に走っているマークだ。これは「この先に非常口がありますよ」とか「この方向に進むと安全ですよ」ということを知らせている。とくに大きな建物では、すぐに外に出られないこともある。だから、この矢印マークをたどっていくことで、安全に非常口までたどりつくことができるようになっていく。

どちらのマークも、すぐに目に入りやすいように緑色でつくられている。緑は人の目に一番見つけやすい色だといわれている。しかも、外国の人にも意味が伝わるように、文字ではなく絵のマークになっている。だから、日本に来たばかりの人や小さな子どもでも、すぐに避難の場所がわかるようになっている。

4.まとめ

非常口マークは、公共の建物には必ずある。でも、これまで私は「あっ、ここにもあるな」ぐらいにしか思っていなかった。今回くわしく調べてみて、非常口マークには2つの種類があり、それぞれに大切な意味があることが分かった。もし災害などが起きたとき、このマークは命を守るためにとても役立つものだと思った。

どんな人でも楽しめる！工夫が沢山の車椅子

御所浦小学校五年

1調べたきっかけ

私たちがよく行く博物館には、ユニバーサルデザインがたくさんある。車椅子もいくつも置いてあった。そこで、なぜ車椅子があるのか、またそのまわりにどんな工夫があるのかをくわしく調べようと思った。

2調べ方

私は、博物館に実際に行って、自分の目で見ながら気づいたことをメモに書き出した。車椅子やベビーカーがどこにあるか、どのように置かれているかなど、くわしく見てまわった。

そのあとで、気になったことや分からなかったことを、博物館で働いている人にインタビューした。「どうして車椅子がたくさんあるのですか？」「誰でも使えるようになっているのですか？」など、ていねいに質問をして、答えてもらった。

3調べてわかったこと

(1) 車椅子はなんのためにあるのか

車椅子は、けがをしている人や体が不自由な人など、いろいろな人を楽しんでもらうために用意されている。誰でも使うことができ、安心して館内をまわれるようになっている。



(2) 車椅子のまわりにはどんな工夫があるのか

車椅子のほかに、ベビーカーも置いてある。体が不自由な人だけでなく、赤ちゃんを連れてきた人も使うことができる。どんな人でも安心して使えるように、いくつも用意されていて、お金もかからない。だから、気軽に使えるようになっている。車椅子は受付の近くにあり、声をかけやすいようになっているのも工夫の一つである。

4まとめ

博物館にある車椅子やベビーカーについて調べてみて、誰でも使いやすいようにたくさんの工夫がされていることがわかった。安心して使えるようになっていて、どんな人でも楽しめるように考えられている。博物館には、だれもが使いやすいデザインがたくさんあると感じた。

参考

スポーツTOKYOインフォメーション